

名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン ふみよむゆふべ

第51回

女はらからの王朝物語史 — 『伊勢物語』 『源氏物語』 を中心に —

かたり 大井田 晴彦氏 名古屋大学人文学研究科教授

平安時代の物語には、若い貴公子が美しい姫君を垣間見することで恋が始まる、というパターンが多く見られます。たとえば『伊勢物語』初段では、奈良の春日の里に狩に出かけた、元服したばかりの主人公が「女はらから（姉妹）」を垣間見て心を惑わします。垣間見られる姫君は一人でもよさそうですが、なぜか姉妹となっています。この話は、後の『源氏物語』などにも大きな影響を与えています。「若紫」巻で、北山に赴いた光源氏が生涯の伴侶となる紫上を見初める場面は、教科書にもよく取り上げられます。また、「橋姫」巻の、薫が宇治の山里で大君・中君姉妹の合奏を垣間見する場面は、国宝絵巻にも描かれ有名です。他にも王朝物語には、「女はらから」が登場する印象的な話が少なくありません。『伊勢物語』『源氏物語』を中心に、王朝物語における「女はらから」の問題について考えてみたいと思います。



『伊勢物語絵巻』東京国立博物館所蔵 出典: ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>) 機関管理番号: A-12341

2025年3月21日(金)

午後6時00分～7時30分

参加無料, 申込不要
会員外参加も大歓迎!

名古屋大学中央図書館 2階ディスカバリスクエア

名古屋大学附属図書館 後援

名古屋大学附属図書館友の会 Tel: 052-789-3684

E-mail: libtomo@t.mail.nagoya-u.ac.jp

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

